

一般研究発表 | 5月20日(土) | ①9:45-11:55、②13:00-13:40 早稲田大学 戸山キャンパス 32号館

	第1会場 32-229	第2会場 32-321-1	第3会場 32-325	第4会場 32-322-1	第5会場 32-228	第6会場 32-323	第7会場 32-324	第8会場 32-127
9:45-10:25	プラトン『ポリテイア』における民衆観	ライブニッツ哲学における事実真理と経験の関係	カントの徳倫理学における習性概念の位置づけ	ヘルマン・コーヘンにおける「無限小法」の意義—「極限法」との対比から	ジョン・デューイの芸術性・日常性・生命—作業療法における「作業」との関連から	「共感」と「陶冶」としての道徳—グルーシー、カバニス、ピランの系譜から	哲学は何を以て叙述の「端初=第一原理」とすべきか—体系的哲学者〈廣松渉〉の「方法」論的理解を参照軸にして	ケア責任の源泉としての「脆弱性」—ケアの倫理における「脆弱性」概念を批判的に検討する
	平石千智	三浦隼暉	清水颯	下山史隆	西野由希子	長坂祥悟	佐野寛明	富岡薫
司会	近藤智彦	稲岡大志	石田京子	中野裕考	稲原美苗	中村大介	三崎和志	佐藤岳詩
10:30-11:10	トマス・アクィナスにおける経験の意味—人間知性に関する議論をてがかりとして	Japanese Philosophy as World Philosophy: from Andō Shōeki to “deep ecology”	Stephen Engstromによる形相質料論的カント解釈の検討—『純粹理性批判』編	死への先駆とリルケの墓碑銘	「感覚の同定などどうでもよい」という話の背景—『哲学探究』第270節の一解釈	Disposition, Remembering, and Recalling	哲学史と思想史の交叉—「イスラエルの「論争に焦点を当てる方法」は哲学・哲学史研究にとっても有効でありえるのか	哲学は法の現実を動かすことができるか
	芝元航平	バシユカ ロマン	山下智弘	串田純一	橋本正吾	櫻木新	津田菜里	早瀬勝明
司会	辻内宣博	竹花洋介	山根雄一郎	景山洋平	吉原雅子	青木滋之	小谷英生	鈴木真
11:15-11:55	コギトとデカルトの循環	ヒュームはなぜT 1.4.7で「全面的懐疑論」に陥ったのか	ヘーゲルはいかなる意味で実在論者と言えるのか—マクダウェルのヘーゲル読解を手掛かりに ※この発表は、発表者の都合により中止となりました	持続の深さについて	ハイデガーの「メタ存在論」とデカルト—身体の視点から ※この発表は、発表者の都合により中止となりました	人格的自律と自己統制的方針	哲学者の直観は素人の直観より信頼できるのか	何のための自由意志か
	岩佐宣明	高萩智也	久保篤史	長谷川暁人	黒岡佳征	川瀬和也	稲荷森輝一	渡辺浩太
司会	津崎良典	矢嶋直規	赤石憲昭	杉山直樹	古荘真敬	藤川直也	三木那由他	秋葉剛史
13:00-13:40	デカルト哲学が持つ普遍性とは何か？—デカルト道徳論とジェンダー	好奇心は猫を殺すか？—好奇心の認知的役割を巡って	ショーベンハウアーの共苦を認知的現象として定式化する試み—情動的共感と認知的共感の区別をもとにして	マイノングの不完全対象とトファルドフスキの一般対象—オーストリア哲学における二つの対象概念の異同をめぐって	ハーバーマス『真理と正当化』における認識実在論			
	柿本佳美	鶴殿悠	末田圭果	小関健太郎	佐々木尽			
司会	木田直人	奥田太郎	美濃部仁	横山陸	大河内泰樹			

\*発表25分/質疑15分を目安とする。

※タイムテーブル最新版は学会ウェブサイトでご確認ください。

公募ワークショップ | 5月21日(日) 9:20-11:50 早稲田大学 戸山キャンパス 36号館

タイトル	「哲学はあるのか」という問いは何を意味するのか？周縁に定位した哲学に向けた論点整理	動物倫理とフェミニズム・ジェンダー問題	哲学プラクティスの現在
登壇者	中野裕考 河野哲也 王青 長野邦彦	浅野幸治 ベンジャミン・クリツァー 鬼頭葉子 鶴田尚美	馬場智一 Peter Raabe Susan T. Gardner 土屋陽介 西山溪
会場	36-581	36-681	36-682